

コラム「富山で見られた低緯度オーロラ」

なかがわ たつ お
中川 達夫 ※1

2024 年から 2025 年は、11 年周期とされる太陽活動の極大期となり地球に届く太陽風などが強くなることで顕著なオーロラの活動にも繋がるとされています。近年では、太陽活動を監視するシステムも確立しオーロラの元となる地磁気の動向も予測できるようになりました。

2024 年 10 月 11 日未明にオーロラが見られる可能性があるとこの予測が SMS 上に流れてきました。天気予報では富山県内も天気が良さそうだったため北天の視界の良い場所（富山県朝日町 北緯 36 度 57 分 40 秒 東経 137 度 38 分 13 秒 標高 502m）で出現を待ちました。地磁気観測からのオーロラ予報では 2 時頃から見られそうでしたが、念のため 0 時から 1 台のカメラで撮影を始めました。連続して撮影した写真を PC で動画化するタイムラプス手法では、星あかりなどの変化も映像として見ることができます。（図 1 QR コードより動画が見られます）2 時以降に撮影した写真を確認するとすでに水平線近くがすっかり赤くなっていました。（図 2）もう 1 台のカメラを低空主体にセット、赤いオーロラの動きも捉えるためです。富山湾上空には雲が通過して時折低空が覆われそうになりヤキモキします。遠く能登半島の珠洲市や能登町の街明かりも見えます。漁船の漁火も移動している様子も伺えます。肉眼で明確に赤くは見えませんが、北の低空がほんのり明るいのは感じる事ができました。

過去にアラスカ、カナダ、フィンランドにて頭上に広がるオーロラを見たことはありましたが、地元富山県内で見られたオーロラはまったく別の存在のように思えます。富山県内での低緯度オーロラの撮影は 2003 年以来（図 3）でした。また巡り合えた喜びに包まれて朝を迎えました。

※1 日本星景写真協会会長 富山県天文学会所属

図 1: QR コードをスマートフォンで読みとると YouTube に移動します。



<https://youtu.be/Q8VbubIqTmY>

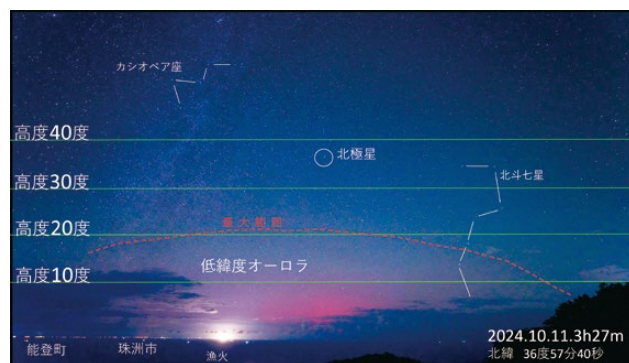


図2：2024年10月11日未明の低緯度オーロラ

（表紙の写真に星座や高度などを加筆）

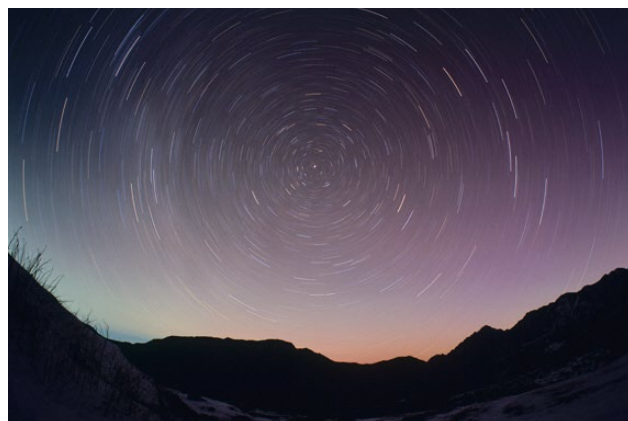


図3：2003年10月31日2時の低緯度オーロラ

（立山室堂）中判ボジ 35mm 20分

とやまと自然 第48巻 第2号（通算189号） 令和7年8月1日発行
発行所 富山市科学博物館 〒939-8084 富山市西中野町一丁目8-31
TEL 076-491-2123 FAX 076-421-5950
URL <https://www.tsm.toyama.toyama.jp/>

発行責任者 笠間 信行 印刷所 株式会社グラフ TEL 076-438-4040